

28日 水曜

伝道者の書



10:1 死んだハエは、調香師の香油を臭くし、腐らせる。少しの愚かさは、知恵や栄誉よりも重い。

10:2 知恵のある者の心は右を向き、愚かな者の心は左を向く。

10:3 愚か者は、道を行くときにも思慮に欠け、自分が愚かであることを、皆に言いふらす。

10:4 支配者があなたに向かって立腹しても、あなたはその場を離れてはならない。冷静でいれば、大きな罪は離れて行くから。

10:5 私は、日の下に一つの悪があるのを見た。それは、権力者から出る過失のようなもの。

10:6 愚か者が非常に高い位につけられ、富む者が低い席に座しているのを、

10:7 また、奴隷たちが馬に乗り、君主たちが奴隷のように地を歩くのを、私は見た。

10:8 穴を掘る者は自らそこに落ち、石垣を崩す者は蛇にかまれる。

10:9 石を切り出す者は石で傷つき、木を割る者は木で危険にさらされる。

10:10 斧が鈍くなったときは、刃を研がないならば、もっと力がある。しかし、知恵は人を成功させるのに益になる。

10:11 もし蛇がまじないにかからず、かみつくならば、それは蛇使いに何の益にもならない。

もしも人間か神の存在を認めないなら、人間を含むすべてのものもただ偶然によって存在しているというほかありません。ただ無目的に存在してしまったのだということです。

そして偶然ですからそこには何の判断も価値基準もありません。すべてが無価値で無意味なのです。当然人間の生き方も、知恵ある生き方も愚かな生き

方も、両者には区別がないはずで。神がないとするなら、その論理的な結末はそのような世界観です。いや世界観自体あり得ないのです。

しかしここで伝道者が強調するのは、知恵ある生き方と愚かな生き方があるのだということです。両者は右と左のように相容れないものであり、もしも知恵がなければ、掘る穴に「落ち込み」、作業中に「蛇にかまれる」のです。

「知恵は人を成功させるのに益になる」のだとしたら、この世は知恵によって理解されるような秩序があるのだということであり、そのような秩序を創造された知恵ある創造者がいるということでした。

完全な知恵によって万物を創造なさった神様をほめたたえましょう。その知恵をいただいて生活するとき、また仕事をするとき、まなぶとき、神様に感謝しましょう。

また人類共通の知恵によって、未信者の方とも理解し合い、知恵の源である主を証する機会を探りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

